

Fellowship for the Advancement of Radiology

情報誌

F A R

27 号

事務局：(社) 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556 / http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

ごあいさつ

辛さと悲しみをこらえて

副会長 川上壽昭



うららかな陽光を浴びてのりくらしと緩い波が寄せ返している瀬戸内の海辺を眺めていると、江戸時代中期の俳人であり画家でもあった与謝蕪村が、須磨の海岸で海を眺めながら詠んだ「春の海 終日（ひねもす）のたりのたり哉」の句を思い浮かべ、波間に近づく「春」の足音を楽しみにしてきました。

しかし、昨年の春は、加齢に加えて長年の不摂生も重なり 1 月 15 日の朝に脳梗塞を発症し、楽しみにしていた「春」の足音を聞く機会を失いました。

その後、一時は再起不能とも囁かれていた脳梗塞の症状も病院スタッフの懸命な治療のお陰で、何らの身体的な後遺症も発症せず、奇跡的に回復して仕事にも復帰することができました。

そして一年が経過し、今年こそは瀬戸内の海辺が眺めれると楽しみにしていた矢先に、お互いを励まし合ってきた木村千明先生の訃報に接することになり、大伴家持が万葉集の中で歌った「うらうらに 照れる春日に ひばりあがり ころろ悲しも ひとり思えば」を思い出し、遠く空を眺めながら一人悲しみに浸っていました。

仕事を愛し、家族や友人を愛し、そして FAR 会をこよなく愛して何事にも直向きだった木村先生が、もはや二度と目の前に現れることもなく、話もできないと思うと、現世のはかなさ、悲しさが胸を突きます。

木村先生とのお別れ、痛恨の極みではありますが 100 万粒の涙をこらえて哀悼の誠を捧げます。

「生者必滅、会者定離」は浮世の定めと存じていますが、大切な仲間を失うことは余りにも辛く、悲しいことです。

FAR 会会員の皆様には、決して無理をなさらず、自己管理のもとで健康に留意なされて春、秋にお逢いできますこと楽しみにしております。

内 容

1. ごあいさつ 副会長 川上壽昭
2. 2010 FAR 会懇親の夕べ報告
3. 2010 秋の FAR 会予告
4. 会員動向
5. 会からのお知らせ
6. FAR 会ホームページの完成と利用について
7. 特集「患者を体験してみよう」
 - 1) 病気との付き合い方は難しい 大塚昭義
 - 2) 脳梗塞闘病記 川上壽昭
 - 3) MR ノイズで災難 齋藤一彦
 - 4) 病気の問屋と言われて 75 年 前越 久
 - 5) 患者を体験してみよう 松井美楯
8. 追悼文
9. JSRT 情報
10. 第 28 号の特集原稿募集
11. 連載《ご当地自慢 その二》 前越 久
「名古屋の巻」
12. 編集後記